Tokyo 12 Best Sexy Restaurants
2012年9月12日
2012年夏・東京いい店やれる店【12】――渡辺淳一も認めた大人のデート鰻店「喜代川」

恋する男にとって、「いいレストラン」の真価とは？ 女性が気に入ってくれるかどうか、である。「やれる店」こそいい店、という画期的な理論で一世を風びした『東京いい店やれる店』の著者ホイチョイ・プロダクションズが近著『新・東京いい店やれる店』に未掲載のレストランを中心に最も「やれる店」を『GQ』読者のために選び抜いてくれた。この夏必読のレストラン・バイブル！

文：ホイチョイ・プロダクションズ イラスト：高田真弓

築80年の店構えには子供を寄せ付けない迫力が。客層は大企業の接待がメイン。鰻は九州の養殖ものだそうだが、味に遜色はなく、この値段で持ち堪えているのは立派だ。

「喜代川」
tel.03-3666-3197
1874年オープン
中央区日本橋小網町 10-5
45席
11時〜14時、17時〜20時 L.O.
日祝休

テレビで再三報道されているのでご存じの方も多いと思うが、今、日本のウナギは大ピンチ。そもそもウナギは、人間の管理下では絶対に産卵しないので、養殖と言っても、海で稚魚の「シラスウナギ」を捕まえて育てるしかないのだが、ここ3年、その「シラスウナギ」漁が絶不調。今年は特にヤバイらしい。おかげで、2年前までは1kgあたり2000円だった鰻屋の仕入れ値が、今年は一時6000円にまで上昇（さすがに今は少し戻したそうだが）。東京の老舗の鰻屋は、原価上昇分をまるまる客の勘定に転嫁するわけにもゆかず、泣きの涙で価格を抑えているのだという。従って、この夏行くべきは、鰻屋である。

われわれのイチ押しの「やれる」鰻屋は、日本橋小網町の『喜代川』だ。なにしろこの店、渡辺淳一のやりまくり小説『化身』で主人公の霧子が鰻を食べに通った『喜代村』のモデルとなった店で、小説にちなんだ「霧子」という名前の個室もある。これほど大人のデート向きの鰻屋はない。

店の建物は、水天宮近くのビル街の谷間にポツンと残された、築80年の2階建て木造家屋。1階は、靴を脱いで上がった先に、座敷のテーブル席が14席。急な階段を上った2階には、個室が5室。出窓にすだれがかかり、個室で食事をしていると、都心のビル街とは思えぬ、京都祇園にいる気分だ。

1階のテーブル席は、3000〜4000円のうな重だけでもOKだが、2階の個室を利用する場合はコースの注文が必須。料金は1万500円と1万3650円。安い方のコースでビールを2本飲んで、勘定は2人で2万3000円少々。これでも、赤坂の『重箱』や『山の茶屋』といった個室鰻店に比べたら、ほぼ半額である。

ちなみに、この店から800mのところに日本橋があるが、この橋のたもとからは、東京の観光の活性化を図るために様々な企業や団体が集まって結成した「江戸東京再発見コンソーシアム」が、日本に5隻しかないカリフォルニア製の電気ボート（10人乗り）を使って実施している、日本橋川や神田川といった江戸古来の運河を巡るボート・ツアーが出ており、日によっては「夕涼み」のための夕方発の便もある。料金は大人2500円で、3万1500円からチャーターも可能。まずこのボートに乗って江戸の運河を巡り、それから、ブラ散歩して『喜代川』へ行き、かつてはその川で豊富に獲れた鰻を食す。これはなかなか気の利いた大人のデートではないか。

『新 東京いい店やれる店』

1994年のベストセラー『東京いい店やれる店』の第2弾として、2012年7月12日発売。ホイチョイ・プロダクションズが都内のレストランを覆面で訪れた結果、選び抜いた「やれる店」の数かずを天使マークで評価。小学館。1680円